

辺野古承認

知事「困難」

政府、代執行で提訴へ

沖縄県の玉城デニー知事は4日、米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古移設を巡り、軟弱地盤改良工事の設計変更に関する政府の承認指示に対し「期限までの承認は困難」と回答したと記者団に明らかにした。政府が定めた承認期限は4日で、承認を事実上拒んだ形だ。政府は知事に代わり承認する「代執行」に向けて、5日にも福岡高裁那覇支部に提訴。勝訴すれば工事に着手できるため、移設反対の姿勢を貫いた知事の判断が工事阻止に

つながるかは見通せない。

政府は、9月4日の最高裁判決で承認義務を負った知事が応じないため、代執行の最初の手続きとして同日に承認を勧告。「期限までの承認は困難」と知事が回答したことを受け、同日、より強い「指示」に踏み切っていた。

関係者によると、最高裁判決を受け、複数の県幹部が知事に「司法の最終判断には従うべきだ」と進言した。ただ知事を支える地方議員や市民団体から「承認すべきではない」との意見が続出。知事は工事の承認はできないと決断した。一方、行政機関として司法判断に背く「不承認」とは明言しなかった。